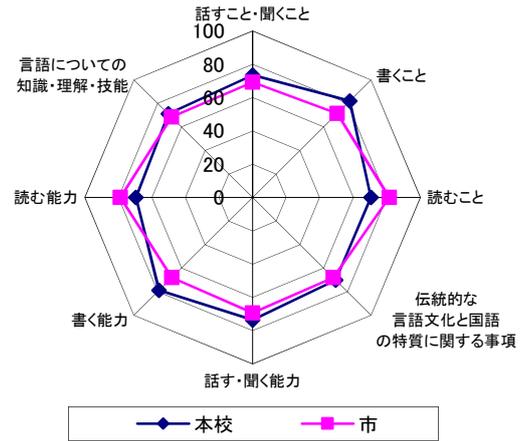


宇都宮市立篠井小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	73.5	69.3	73.4
	書くこと	81.9	71.3	74.6
	読むこと	70.6	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.1	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	73.5	69.3	73.4
	書く能力	79.0	68.1	71.7
	読む能力	69.5	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	71.1	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

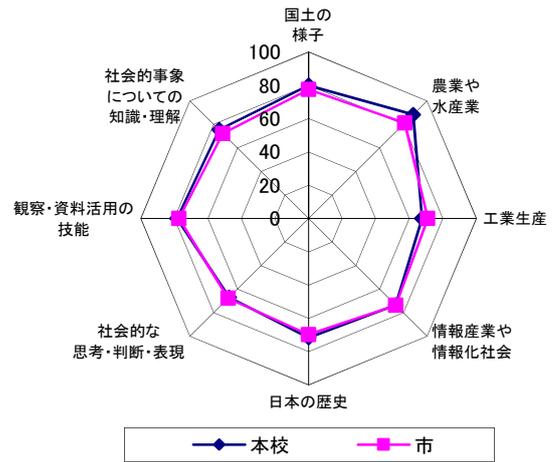
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域別、観点別共に市の正答率を上回っている。話し手の意図を考えながら、話合いの内容をまとめる記述式の設問では、市の正答率を上回っている。小グループでの話合いを授業中に取り入れることで、相手の意見と自分の意見を比べながら聞き取ることができるようになってきた結果である。	・今後もペアやグループ活動を意図的に取り入れ、話合いの形態を工夫することで、自信をもって話合いに参加するとともに、聞く力も向上させていく。
書くこと	○作文の設問では、すべての問題で市の正答率を上回った。特に自分の意見を明らかにして文章に書く記述式の問題は100%の正答率であった。自分の考えや意見を文章化してノートや作業用紙にまとめたり、毎時間の振り返りを丁寧にまとめさせたりと、継続的に書く活動に取り組ませてきた結果である。	・国語だけではなく、他教科でも自分の意見や考えを文章化して表現することに慣れさせる。また、意見文などを書く学習では、自分の意見を明らかにさせ、根拠や事例を挙げて書くことを丁寧に指導していく。
読むこと	●物語文、説明文共に読むことの領域は市の正答率を下回った。特に、説明文の内容を的確に読み取ることに課題が見られた。	・物語文の読み取りでは、場面や登場人物の心情を思い浮かべながら読み取れるように指導していく。また、説明文の読み取りでは、文章構成を押さえながら、要旨を読み取れるように指導していく。 ・朝の読書や地域の方による読み聞かせを利用して、いろいろな種類の書籍に触れる機会を増やしていくことで、読書の習慣をつけていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み、書きの問題はすべての設問で市の正答率を上回っている。単元ごとの小テストを計画的に実施するだけでなく、年間を通して復習に力を入れて取り組ませた結果である。 ●言葉の学習では、敬語の使い方に課題が見られた。	・全校一斉での復習プリントに「言葉」の学習を意図的に取り入れ、習熟を図っていく。また、生活の中で丁寧な言葉遣いが自然にできるように実践的な態度の育成に努力していく。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	80.0	77.5	74.0
	農業や水産業	88.2	81.1	73.7
	工業生産	67.6	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	73.5	73.7	63.2
	日本の歴史	71.6	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	67.0	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	78.3	77.3	75.5
	社会的な事象についての知識・理解	75.5	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

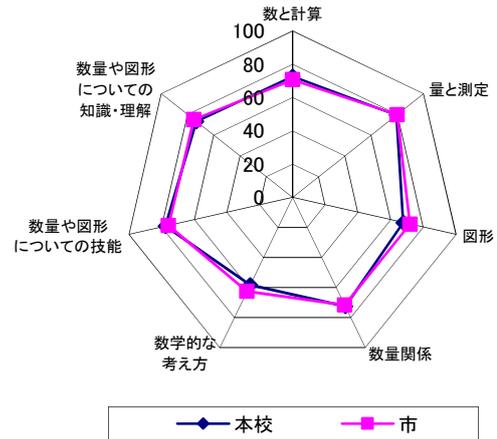
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<p>○日本の周辺の海洋名や国の国旗についての問題では、市の正答率を上回った。授業の中で、名称を覚えるだけでなく、地図で場所を確認して指導を行ってきた成果であると考えられる。</p> <p>●日本の気候の様子について雨温図や地図を使って考える問題では、市の正答率を下回った。</p>	<p>・授業の中で、既習事項と雨温図や地図などの複数の資料と結び付けて考えていく活動を積極的に取り入れていく必要がある。</p>
農業や水産業	<p>○日本の食料生産についての問題では、4問中3問が校内正答率100%であった。社会の授業だけでなく、全校で取り組んでいるみどり活動での体験的学習の成果であると考えられる。</p> <p>●日本の食料生産の課題について、資料をもとに考える問題では市の正答率を5.6ポイント下回った。</p>	<p>・授業の中で、複数の資料を用いながら考えられることをまとめる学習を取り入れていくとともに、文章でまとめる活動も積極的に取り入れていく。</p>
工業生産	<p>○化学工業製品についての問題では、市の正答率を大きく上回った。</p> <p>●工業地帯・地域について資料から考える問題では、市の正答率を大きく下回った。資料から、それらの結果が出る背景について読み取る力に課題が見られる。</p>	<p>・授業の中で、資料を読み取る活動だけでなく、なぜそのような結果が出るのか、資料の背景についても深く考える活動を取り入れていく必要がある。</p>
情報産業や情報化社会	<p>○身の回りのメディアについて理解しているかどうかの問題については、市の正答率を大きく上回った。様々なメディアの特徴やメリットデメリットについて深く考える活動を取り入れた成果であると考えられる。</p> <p>●医療における情報ネットワークについて、資料から考える問題では、市の正答率を下回った。</p>	<p>・資料が示す内容と、既習事項の内容とを結び付けて考えることに課題が見られるため、授業の中で資料をより多く使い、適切に読み取ったり考えたりする活動を取り入れていく必要がある。</p>
日本の歴史	<p>○ほとんどの問題で市の正答率と同等もしくは上回ることができた。</p> <p>●竪穴式住居について理解しているかの問題、国際社会で活躍した日本人について資料を読み取る問題では市の正答率を下回った。</p>	<p>・縄文、弥生時代の既習事項についてももう一度確認していく。</p> <p>・資料が示す内容と既習事項との内容を結び付けて考える活動を取り入れていく。</p>

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.7	70.8	65.9
	量と測定	79.4	79.9	77.0
	図形	67.6	71.8	74.6
	数量関係	72.5	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	58.3	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	77.7	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	73.4	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

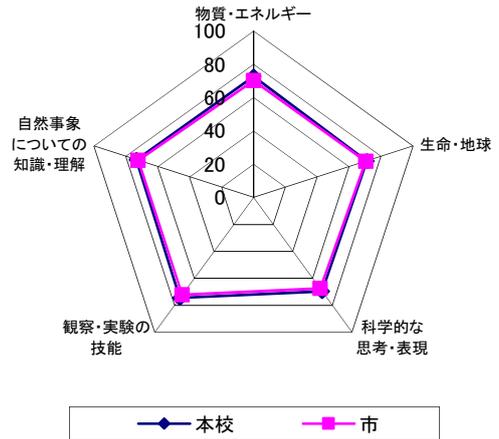
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○小数や分数の乗法や除法の計算では、すべての問題で市の正答率を上回った。基礎学力の向上を目指した全校的な取組を、朝の学習を中心として実施した成果であると考えられる。</p> <p>●図を見て比較量を求める式を選んだり、場面を理解し、式の表すものを選んだりする問題では、市の正答率を大きく下回った。問題の中の数が表す意味やその関係をとらえる力に課題が見られる。</p>	<p>・整数・小数・分数の四則計算などの基礎的な力をさらに定着させるよう、全校的な取組を改善しつつ継続する。</p> <p>・問題を図に表したり、単位を手がかりに数が何を表しているかを確認させたりすることによって、数の関係を正しくとらえさせるよう指導する。</p>
量と測定	<p>○面積や体積、速さを求める問題では、ほとんどの問題において80%前後の正答率であり、市の正答率とほぼ同程度である。</p> <p>●円と正方形を組み合わせた図形の面積を求める式から、その求め方を示した図を選ぶ問題では、市の正答率を下回った。図形を分割してとらえる力や、式の中の数が表す意味とその関係をとらえる力に課題が見られる。</p>	<p>・組み合わせた図形の面積や体積を求める学習の際、求め方を多様に考えさせ、それぞれを検討することによって、図形の見方を広げるようにする。</p> <p>・面積や体積を求める際、図に数を書き込むなどして、数が表す図形の部分を確認するようにさせる。</p>
図形	<p>●多角形の内角の和を求めたり、線対称な図形の対称の軸を見つけたりする問題では、市の正答率とほぼ同程度ではあるが、正答率が50%前後と低い。また、三角柱の展開図を組み立てた時に重なる頂点を選ぶ問題では、市の正答率を大きく下回った。図形の性質や構成の仕方についての理解に課題が見られる。</p>	<p>・図形の基本的な性質について確認するとともに、作図をしたり展開図から立体を組み立てたりするといった具体的な体験を伴う活動を多く取り入れ、図形についての豊かな感覚の育成を図る。</p>
数量関係	<p>○比例の関係を式に表したり、反比例の表を読み取り、表にあてはまる数を求めたりする問題では、市の正答率を上回り、いずれも94%以上の正答率であった。</p> <p>●もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べる量が多くなることを具体的に説明する問題では、比べる量が多くなることは理解できるが、そのわけを説明することについては、市の正答率を下回った。</p>	<p>・今年度、算数科において「思考力・表現力」を育てる手立てとして、自分の考えを伝えるために書いたり話したりする活動を意図的に取り入れてきた。今後もその取組を継続し、「思考力・表現力」の育成を図る。</p>

宇都宮市立篠井小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.7	70.3	69.0
	生命・地球	71.0	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	69.7	67.5	66.4
	観察・実験の技能	74.5	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	73.4	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○ふりこのきまりについては、3つの問題とも市の正答率を大きく上回った。条件を制御しながら実験を行い、運動の規則性を体感することによって、知識が定着し、それをもとに正しく思考できた結果と考えられる。</p> <p>●食塩を溶かす前と後とで全体の重さが変わらないことや水に溶けた物の取り出し方についての問題では、市の正答率を大きく下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・問題解決のための実験では、条件を制御し適切に行うとともに、個人やグループで行った実験結果の処理や考察を、根拠をもとにして議論するなど、丁寧に行い、学習内容の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>○血液が体の各部分や肺で交換する物質の組み合わせを選ぶ問題や生物と空気との関わりを答える問題では、市の正答率を大きく上回った。</p> <p>●心臓が血液を送り出す動きの名前や植物の茎の水が通る部分を指摘する問題で、市の正答率を下回った。</p>	<p>・毎時間の授業の中で、その時間に学習した内容についてまとめたり、活動を振り返ったりするとともに、単元の終わりには、その単元で学習したことを確認しながら再度まとめたり、単元の活動を振り返ったりして、確実な定着を図る。</p>

宇都宮市立篠井小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎学力の定着と、学び合い	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明確にし、学習の流れが分かりやすい授業展開 ・家庭学習の習慣化を図るための自主学習計画表の活用 ・朝学習を利用した復習の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの教科も市の正答率を上回る領域が増え、基礎学力が高まってきている。 ・授業内容の理解も肯定的な回答が多い。 ・家庭学習については学年差が見られるものの平日の家庭学習時間は増えてきている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の確実な定着 ・誰もがわかる、できる、学び合いのある授業の工夫 ・学習の振り返りとまとめの徹底 ・個に応じた指導の工夫 ・家庭学習の習慣化
--